



校内放送を活用した防災学習支援



DATA

- 主な連携先・メンバー
神戸市立真陽小学校
- 活動地域
兵庫県神戸市長田区
- 活動期間
2014年度～継続中
- 活動資金
関西大学地域連携活動に対する補助事業(2019年度)

活動の目的

- 1 ローカルメディアを活用して児童の防災力を向上させること
- 2 学校防災と地域防災の連携強化を図ること

連携にいたる経緯

神戸では、阪神・淡路大震災の教訓継承と、南海トラフ巨大地震等の対応促進という課題と向き合うために、学校で持続的に防災や復興を学び続けるプログラムが必要となっていた。そこで、委員会活動を基軸として校内放送を活用するプロジェクトを開始した。



活動内容

毎週月曜日の昼休み、児童と大学生が作成した防災に関するコンテンツを8分程度、校内放送を通してオンエアしている。クイズあり、ドラマあり、インタビューあり。生放送なのでハプニングもあり。通年で全学年が同時に少しづつ学べる仕組みで、児童からも教職員からも保護者からも地域住民からも好評を博している。地震・津波だけでなく、防火・防犯など、暮らしの安全・安心に関するテーマをすべて扱っている。

保護者は校内放送を普段聞く機会がないので、「ぼうさいタイムズ」という防災版の学校だよりを毎月末に配布して、家庭内で情報共有に役立てていただいている。2019年度は、防災川柳を児童や保護者から集めて紹介するシリーズを組んだところ、全校児童数を超える多数の作品が集まった。2020年1月に開かれた「真陽防災のつどい」で、全校児童・保護者・地域住民のまえで優秀作をお披露目した。最優秀は4年生の作品。「防災は受け継がれていく 未来へと」。

活動の成果

- 1 校内防災放送の取組みは、通算6年が経過、放送回数176回を数える
- 2 「ぼうさいタイムズ」の発刊は、通算3年が経過、発刊数は40号を超える
- 3 ジャパンレジエンスアワード金賞(教育機関部門)など受賞多数

今後の課題・目標

- 1 真陽小学校と、さらに別の小学校の「防災放送交流」を企画すること
- 2 真陽小学校の卒業生のフォローアップ
- 3 真陽地区の防災福祉コミュニティとの関係を深めること

教員紹介



■ 社会安全学部 准教授

近藤 誠司
Seiji Kondo

日本で唯一の「災害ジャーナリズム論」のゼミを開講。外国人大学院生も共に学ぶ。ぼうさい甲子園グランプリ、レジエンスアワード金賞、学長奨励表彰3年連続受賞。テレビ、ラジオ、新聞等で、学生みずから情報発信。レギュラー番組も数多い。